

II. 実践研究の報告

3. なでしこ保育園（埼玉県 熊谷市）

1. 研究テーマ

延長保育・一時保育の研究

2. 保育園名

なでしこ保育園・第二なでしこ保育園・第三なでしこ保育園

3. 研究代表者

なでしこ保育園園長 門倉文子

4. 保育園の所在地

なでしこ保育園埼玉県熊谷市柿沼 921-9

第二なでしこ保育園埼玉県熊谷市柿沼 955-2

第三なでしこ保育園埼玉県熊谷市円光 2-10-10

5. 定員数・入園児童数

なでしこ保育園 120 名（入園児 150 名）

第二なでしこ保育園 150 名（入園児 183 名）

第三なでしこ保育園 60 名（入園児 70 名）

6. 保育園の沿革（園の紹介）

昭和 40 年 1 月 60 名定員で開園したなでしこ保育園も高度経済成長の中で、44 年度に 90 名定員に増員、50 年 9 月には 120 名に増員とあっという間に大きな園になってしまいました。さらに 54 年 4 月にはなでしこのすぐ近くに、120 名定員の第二なでしこ保育園を建設、それでも待機児童は増えるばかりで平成 10 年 4 月には定員 60 名で支援センター・一時保育併設の第三なでしこ保育園を建設し地域に幅広く貢献して参りました。乳児保育、障害児保育、体力づくり、絵本を中心とし、造形音楽を含めた情操教育、そして今は何よりも、情緒不安定な子ども達への人間関係を深め心の安定を図る保育に力を入れております。現在もなお待機児童が増加しているため、平成 14 年には第二なでしこの定員を施設設備はそのまま、定員を 150 名に変更しております。

7. 延長保育・一時保育を始めた動機等

なでしこ保育園開園当初（昭和 40 年開園）は、延長保育を希望する子はほとんどおりませんでした。開園 10 年を過ぎた頃から希望者が増え始めました。世はまさに高度経済成長期に入り、園周辺も新興住宅地となり新しい住宅が急激に増え始めました。それに伴い核家族で子育てをしながら、母親が外で働く家庭が増えたことにより、朝 7 時から夕方 6 時迄の延長保育が始まりました。その後夕方は 6 時半迄、平成 8 年からは夕方 7 時迄の延長時間で対応いたしました。そして第三なでしこの開園に伴い夜 8 時迄（なでしこ・第二なでしこは 7 時まで）として現在に至っ

ております。乳幼児の保育時間としては、決して望ましい時間ではありませんが、地域や保護者のニーズに応え、保護者の就労を支える為に必要な時間と考えました。

また子どもに二重保育の負担がかかる事のないように保育時間の延長に踏み切りました。フルタイムで働いている保護者にとっては延長保育は重要で、夕方何時迄保育をしてもらえるかによって園を選んでいる人も多いため、延長保育希望者は年々増える一方です。

一時保育についてもかねがねその必要性は感じておりましたが、施設設備の関係もありなかなか実現は出来ませんでした。平成10年度の補助を頂き第三なでこ保育園建設時に、支援センターと共に併設し開始しました。現在は市内の園で始めましたので開園当初よりも利用者数は少なくなりましたが、年間を通して見ますと、かなりの利用者があります。

a. 研究の目的・概要

日常保育の中では特に11時間開所を行うようになって以来、職員1人8時間労働を守って保育をして行きますと、時間差勤務をしておりますので、なかなか話し合いの時間がうまく取れず、問題を感じていながらも改善できない事もありましたので、今回のテーマである「延長保育」「一時保育」について改めて問題意識を持って取り組むことが出来ました。

職員の意識調査や保護者アンケートを通して現在の問題点の確認をして、その問題について話し合い研究しました。

b. 研究スタッフ（氏名・役職名）

園長・・・門倉文子

保育士・・・渡辺里美・塚越純子・矢田喜美枝・新井澄江・花輪千秋・高田美華・辺見恵子・森田美由紀・市川哲子・渋谷加奈子・中村和子・小坂橋睦美・柳田多恵子

管理栄養士・・・荏原千尋

c. 研究の方法・研究会議の状況等

9/3（金）園内研究委員会

3園の延長保育・一時保育の現状検討

調査研究事業の方向性と計画作成 9/9（木）子育てに関するアンケートを保護者へ配布 9/17（金）アンケート回収 9/21（火）延長保育・一時保育担当者との話し合い・内容検討 9/28（火）アンケート集計 10/5（火）アンケート集計結果の分析と研究課題の確認 10/19（火）一時保育利用者の年齢別・時間別・理由別の集計 11/2（火）延長保育のおやつメニューの検討と作成 11/10（水）～22（月）延長保育新メニュー実施 11/25（木）延長保育のおやつ実践のまと

めと今後の取組

一時保育のまとめと今後の取り組み 11/30 (火) 調査研究のまとめと担当部分のレポート作成

ア. 研究の実施状況

延長保育について

夕方 6 時以降の延長保育希望者には、保護者から申請書を提出してもらっています。ここ数年で朝は 7 時から、夜は 6 時以降の延長保育を希望する子どもが増え長時間保育希望者、特に乳児が増えてきた為、職員の配置の人数が以前に比べて多く必要になりました。限られた職員の中で、勤務時間（早番、遅番）をこなせなくなったので、5 時から 6 時までの保育を含めてもう一度延長保育について話し合いを持ってみました。

〈今までの問題点〉

- (i) 6 時以降に申請を出していない子が、親が迎えにきて子どもがまだ遊びたいという理由ですぐに帰らず、6 時を過ぎたり、親同士で話が夢中になってしまい子どもをすぐに連れて帰らない姿も多く見られるようになり、保育士の負担も多くなっています。
- (ii) 第一、第二の子どもたちが園バスで第三に移動し、三園の子どもたち（異年齢児）が、一つの部屋に集まりおやつを食べる為、一時的に混乱が生じてしまっています。
- (iii) 乳児は特に長時間保育の子が多く、夕方はぐずり易くなってしまふ為抱っこやおんぶが必要になり、さらに授乳の時間が重なると職員の人手をとられてしまう状態です。
- (iv) おやつはおにぎりの味を変える工夫をしていますが、毎日食べている子は、飽きてしまい食べたがらない子がでてきました。
- (v) 遊びがワンパターンになってしまい、人数の多さに集中して遊びこむ事ができなくなってしまいました。
- (vi) 第一・第二からの移動では、子どもを園バスに乗せる際に保育士が添乗保育士に口頭やメモで子どもの様子を伝えていましたが、細かい所がうまく伝わらないことがありました。

〈改善点〉・・・・・・・・上記の番号順に改善点を記しています。

- (i) お迎えにきた時間を記入してもらっていましたが、園から子どもを連れて帰る時間を記入してもらうようにしました。
- (ii) 子どもの人数が多い為、園バスの出発を 6 時発から 6 時 10 分発に遅くしてみました。
- (iii) 乳児と幼児の部屋を分け、幼児の部屋には、コーナー遊びを作ってみました。

(iv) 園バスの時間の変更に伴い、おやつ時間を 6時から 6時 30分に変更しました。又、おにぎり以外のおやつメニューを管理栄養士と委員会で相談して変更してもらい子どもたちに試食してもらいました。

(v) 引継ぎ事項用紙を作成し、細かい点まで記入して引き継ぐようにしました。
〈改善後の様子〉

(i) 親の時間の意識が変化してきたので、迎えにくると早めに連れて帰るようになってきました。

(ii) バスの出発時間を 10分遅くした事で、第三に来る人数が減少しました。

(iii) (v) あそびの工夫について下記に詳しく記載

(iv) おやつ改善についても下記に詳しく記載

(v) 引継ぎ用紙を作成した事により、延長保育者全員が確認できるようになり、トラブルが少なくなってきました。

あそびの工夫、改善について（夕方 5時からの保育を含む）

〈現状について〉

0～2歳児、3～5歳児と保育室を 2つに分けて遊んでいましたが、子どもの人数の増加により、2つの保育室だけでは狭く、遊びがマンネリ化し、すぐにあきてしまう傾向にある為、子どもたちが、安心して遊べる環境づくりが必要になりました。

〈改善策〉

3～5歳児・・・外遊び後コーナーを 3つに増やし、おままごと、ブロック、粘土、お絵かき、穴通し等のコーナーに決めて毎日同じ環境で過ごすようにしてみました。一つの遊びに夢中になっている子もいれば、遊び終わると次のコーナーに移って行く子もいて、子どもたちが、落ち着いて遊びを展開していけるようになってきました。

0～2歳児・・・晴れている日は散歩車等を使って散歩に出かけたり、中庭で遊んだり、雨の日にはホールの部屋を使って保育し、合同保育になった時は、遊びを変えてボールプールやトンネルを設置してみました。その結果、身体を使って遊ぶ為リラックスして遊ぶ様子がみられました。又、お部屋の押入れを開放してままごとコーナーにしたので、いつでも子どもたちが遊び込める状況になっています。

〈遊びの課題〉

2つの室内を工夫したことにより、落ち着いて遊びを展開していけるようになってきました。今後の課題としては、3～5歳児では、遊びの幅を広げるような、玩具の充実を図り、コーナー遊びを日によって変えたり、数を増やしていこうと考えています。年齢に合わせた遊びを考えていく中で、部屋ごとの玩具の貸し借りも検討し玩具のバリエーションも幅を広げられるよう

にしていきたいと思っています。課題を1つ1つ保育の中に取り入れて今後さらなる延長保育の充実を図りたいと思います。

〈まとめ〉

11時間開所になってから、延長保育だけでなく5時から6時までの保育希望者が急増した為、保育現場の状況は大変なものになっています。少人数でリラックスした雰囲気の中で保育したいと思っていますが、今の状態では、事故を防ぐのが精一杯というのが現状です。手薄になった夕方の保育をどう工夫するか各園とも頭を悩ませながら取り組んでいます。職員の勤務体制もそれに合わせ、早番遅番が増えた為、時間差勤務で職員同士の意思の疎通が、出来にくくなってきています。

今回のレポート作成にあたって、延長保育担当のパートの職員とも話し合いを持ち、スムーズな活動ができるよう心がけました。遊びを工夫したおかげで、今まで遊び込めず、フラフラしていた子が、落ち着いて遊ぶようになり、お迎えの時間までが短く感じられるようになりました。

今後の課題としては、いままで、延長保育時間に大きな事故等緊急事態が、なかったのですが、もしも、事故等起こった場合、今の保育体制では対応しきれない人数の為、緊急に備えての話し合いを重ねて行きたいと思っています。

延長保育のおやつについて

長時間保育の子が増え、夕方遅くまで残る子の為に6時半以降、園では軽食を出すようにしてきました。内容は主におにぎりと飲み物で、毎日おにぎりの中身を変えていましたが、おにぎりの嫌いな子や、だんだん飽きて、あまり食べたがらない様子がみられました。そこで管理栄養士と保育士で、話し合いを進め、2週間試食メニューを考え子供たちに提供してみました。(※下記資料参照)それと同時に子供たちの食べる様子を記録し、保護者にアンケートを配り集計し考察し、今後のおやつのあり方について検討する事にしました。

試食をした子どもの様子

- ・毎日メニューが変わるので、喜んで食べていました。
- ・おやつの時間を楽しみにしている様子でした。
- ・箸やスプーンを使っても特に問題はありませんでした。

〈保護者の意見〉

- ・帰宅後、お腹が空いてぐずる事がなく、とても助かった。
- ・軽食なので、家庭の夕食に差し支える事なく、家族と夕食をとる事ができる。
- ・少食の子なので、軽食を出すなら、子供に夕食をだしてほしい。

以上の結果と、大半の子がおやつを食べた直後に帰る事から、今後どのようにおやつを用意するかを話し合いました。

〈まとめ〉

- ・夕食は家庭でしっかりとってもらうことがよいので、おやつは、空腹を補ってあげる程度の軽いものと考えました。
- ・メニューをおにぎりだけでなく、パンや果物も取り入れ、マンネリ化にならないように月々献立をしっかりと立てることにする。
- ・試食のメニューを下記のように作成し、実施しました。

〈おやつの試食メニュー〉

長時間保育を受けている子どもの事例

事例 1

N子・年齢 2歳児（今年4月より入園）

家庭状況

父（41歳）会社員 母（37歳）事務職 3人家族 自宅近くに父方の祖父母が住み、初孫のN子の世話をしたいと思っているが

母親は祖父母には出来る限り預けたくないと考えている。また、母親の実家は新潟。父親も帰りが遅く、子育ては母親自身ですと考えている。

母子健康センターにて同じ頃に産まれたC子と知り合い、同じクラスを希望し入園してきました。C子と入園以前から支援センターを利用し、顔なじみということもあり、4月当初より慣らし保育をせずに、午前8時30分より午後7時、もしくは午後8時までの長時間保育を利用しています。母親の予想と反しなかなか園にも慣れず、不安定で朝から一日泣いていることもありました。夜泣きをしたり毎朝の登園時に大泣きするN子への自分の関わり方について、担任保育士と懇談する中で、育児に対して肩の力が入りすぎていた自分自身と子どもの心に気づいてくれたようでした。

しかし一緒に触れ合う事がなく距離をあげ傍観的なタイプと母親自身も話していましたが、N子の心が満たされることがありませんでした。また、我が子をよく言い聞かせ厳しいしつけをして母親の理想の子として育てたい思いが強く N子にも細かいことからの要望が多く情緒不安定、アトピー性皮膚炎の悪化、チック症状が現れるようになりました。

入園して8ヶ月を過ぎた現在も、その時により波があり朝から泣いて登園した日は保育士が抱っこやおんぶしていないと不安がる日もありますが、安定しているときはよく遊びおしゃべりも盛んでとても楽しそうです。延長保育時間も異年齢の子、特に大きい子から可愛がられ、お迎えまでよく遊んでいます。

保育園に対して特に「少人数で関わってもらえ遅くまで保育してくれる」と延長保育には、とても感謝しているようです。しかし、仕事も子どものことも落ち度なくきちんとしたい母親なので、園に対しての要望が多く保育士もとても神経を使っています。母親の要望には出来る限り応え、園での様子も連絡帳等で事細かく伝えるようにしています。

父方祖父母は幼い子を保育園に預けることも、長時間遅くまで預けることも可愛そうで 夕方からだけでも初孫のN子の世話をしたいと思っているようですが、母親としては 年齢を重ねた祖父母に送迎をはじめ、預けている時にもしもの事故が合った場合恨んでしまうし、責任を負ってもらえないが、園なら責任をとって貰えるからという理由で延長保育を利用しているようです。

事例 2

R 子・年齢 5 歳児（2 年保育で他園より転園）

家庭状況 母（25 歳）電気製品販売店勤務 と 2 人家族

3 月末まで他園に通い 4 月 1 日から登園してきました。最初は以前の保育園とまったく違った環境になり戸惑っていましたが、顔見知りの友達がいた事もあり日に日に笑顔が見られるようになりました。また、担任保育士にもすぐに心を開き心配していた母親も安心したようでした。

保育園生活に慣れてくると自己主張が強いので友達とのトラブルが多くなったり怒ったり、泣いたりする姿が見られるようになりました。母親のお迎えが毎日夕方の 6 時前後で、その時間にへそを曲げてしまうと気持ちがおさまらず一度泣くとパニック状態になり何を言っても聞き入れず母親も保育士もてこずってしまう事も度々でした。母親は「またなの・・・」と顔を曇らせますが、時間をかけて落ち着くのを待ち、本人が納得してから連れて帰るようにしました。些細な事でへそをまげるのですが、母親にぶつきたい気持ちをじっくり聞いてもらえる時間も必要だと考えました。

母親の仕事が忙しくなると夜 8 時近くのお迎えが見られるようになりました。本人は、第三保育園へ移動するバスにも乗るのが不本意なようでした。第三に行くと自分が一番最後まで残るのがわかるのでしょうか。プンプン怒って片付けをしたり「今日は誰が第三に行くの？」と聞いたり不安な様子が見られました。

年長になると母親の勤務時間が変わり夜 8 時まで延長を希望する事になりました。

R 子が、最後まで残る事が殆どになるので R 子の対応について話し合いました。

〈話し合った後のR子の変化〉

夕方のおやつの後、ゆったり過ごす事が出来るので本人は小さい子の面倒を見たり8時まで残る保育士と色々なおしゃべりをしたり一緒に遊んだりして安定した気持ちで過ごせるようにかかわるようになりました。おやつ後は人数が少なくなるので自分のペースで遊びを進められるので、年長のお姉さんらしさを出しはりきって遊ぶ姿がみられました。そして、安定した気持ちで遊ぶことにより、母親がお迎えに来てもスムーズになりてこずらせる事もなくなりました。

事例3

R君・年齢5歳児（0歳児より入所）M君・年齢2歳児（1歳児より入所）
家庭状況 父（40歳）（販売業）母（41歳）（県立病院の看護師、夜勤あり）
長兄6年生、祖父母は遠方にいる
共働きで近くに祖父母もいない為、兄の在園中から延長保育を利用しています。

一番上の子の時は、延長保育時間が午後6時までとなっていた為、両親の迎えは間に合わなかった為、ベビーシッターの迎えが多く二重保育の状況でした。兄の時は育児に協力的でなかった父親もR君、M君が、続けて生まれR君は未熟児だったので身体も弱かったということもあり家族で話し合っただけで父親が育児に参加するようになってきました。特にこの二人は大のお父さん子です。

M君が入園する頃は、園の延長保育時間も午後8時までとなったので二重保育が少なくなり両親の迎えが殆どになりました。しかし、どうしても迎えが無理なときは、24時間サービスの機関を利用しています。そんな時は、保育サービスに行くのをごねる事が多く、なだめながら送り出す状況で保育士としては胸が詰まる思いです。

母親が仕事中心の為、愛情不足で甘えてくる事が多く兄弟3人とも指しゃぶりをしていました。特にM君は、寝るとき以外も指しゃぶりが多いためなるべくスキンシップをするように心がけています。延長保育でR君が第三に移動してくると喜び遊びますが兄弟喧嘩もよくします。しかし、兄弟だけになると二人寄り添い寂しそうに母親の迎えを待っています。

◎毎日毎日遅くまでの延長保育を受けているこの子どもたちが、安心して楽しく生活できるよう今後も考えて行きたいと思います。

一時保育について

平成10年度開設、現在7年目ですが、開設当初はまだ地域に一時保育を行っている施設が少なく一時保育という言葉に馴染みがありませんので、ともかく不安の中からの出発でした。利用者にはこんな理由（食事会、テニス、

映画) でもいいのかというためらいがあり、こちらもどこまで受け入れるべきなのか、また果たして利用者があるのだろうかなど不安なきもちのまま開所になってしまいました。ところが、どうしても頼まれると断りきれずに担当だけでは対応しきれない人数を受けてしまった日も在りました。もちろん、手伝ってくれる人の有無は確認してありますが、その都度主任や事務室、看護師等の協力なしではとても保育できない状況でした。わずか2ヶ月の赤ちゃんをいきなり一日預かったこともあります。子どもの安全、気持ち(初めての場所で大勢の子どもや大人に囲まれ、わいわいとした落ち着いた雰囲気の中で過ごすことが快適な訳がありません)を思えばこのような受け入れは無理がありました。園全体で関わってもらったために大きな事故、ケガに繋がらなかったことに感謝しています。利用者のため、子どものためとお預かりしたことが無駄にならないように“断る勇気も必要”と実感させられた一年目でした。

現在担当は2人、他施設ではクラスに入って在園児と一緒に保育をすることが多いと聞いている中で、当保育園では専用の保育室に出入り口が設けられ、直接送迎ができるようになっていきます。この恵まれた環境を十分に活かし、子どもたちが少しでも楽しいと感じられるような経験が出来るよう、年齢や人数を考慮した遊具の配置や与え方や遊び方をその日ごとに展開できるように心がけています。

利用案内 (この内容は市内は市内各園統一です)

保育時間

月曜日～金曜日午前8時～午後4時 土曜日午前8時～12時

利用内容

- (a) 緊急一時的保育：原則として1ヶ月程度の利用
- (b) 非定型的保育：原則として6ヶ月、平均週3日程度の利用
- (c) リフレッシュ保育：原則として1ヶ月に1日程度の利用

利用方法

- ・事前に電話等で連絡し申請書を提出して下さい。申請書は園の受付にあります。(予約時間は平日“月～金”8時～16時)
- ・利用する2日前までに予約をして下さい。
- ・上記(a)または(b)で著しく欠席(不利用)が続く場合には申請を取り消すことがあります。

利用料金

- 0～2才児 1日 3000円 (6ヶ月以上となります)
- 3才以上児 1日 2500円
- (上記料金には、食費及び教材費等も含まれます)

短時間でも受け付けています

1時間 700円（お子さんの年齢は関係ありません）

利用料金の支払いは、1日ごとにその日の料金分をいただきます。

※昼食及び、おやつ等も他の園児と同じ時間であれば料金に含まれます。

以下は平成10年から15年までの総利用者を理由別、時間別、年齢別でみてみました。

年度ごとに表した理由別を見ますと1年目と2年目以降では人数に大きな差があります。開設当時は3才未満児は2000円、以上児は1500円、短時間は500円と安かったことと他の一時保育施設が無かったので特に利用者が多かったと思われます。市内に開設当時は2園だった民間の施設が現在は6園になり、来年にはもう2園増える予定です。利用者にとっては近い所で利用できるのは良いことではないでしょうか。

理由別利用者

・仕事の場合、常勤ではなくパートや派遣社員の人がほとんどですが、仕事は決まったがすぐには保育園に入れないので入園できるまでというケースや、まれに突然の出来事で働かなくてはならなくなった（事故、病気）、育児をする人が急にいなくなったという切羽詰ったケースもありました。しかし、なにしろ急な申込みですから受けてあげたいと思いつつも、どうしても断らざるえないことがあります。そのような時は、市内の他の施設を紹介しています。

・歯医者さんにやっといけました、助かりましたというお母さんの言葉にやる気もらったこともありました。他の病院は連れて行けても歯科は一緒には難しいなどのため、短時間（4時間以内）の利用者が平均しています、
・病気という理由には育児ストレスから母子分離を進められたケースがありました。転勤により見知らぬ土地で相談相手もなくまして助けてくれる親戚、友人もなく母子だけで過ごし（血縁も地縁もありません）、育児不安や鬱症状のお母さんもいました。幸い当保育園では一時保育だけではなく地域子育て支援センターとしてサークル支援、子育て相談や場所開放など様々な事業を行っていますので連携して支援を進めてきました。これからもケースバイケースで対応できるようにしたいと思います。

時間別利用者

・これは6年間の合計ですが、ほぼ毎年4時間以上（大体7時間位が多い）の利用者が70パーセントから80パーセントを占めます。料金があまりかわらないのであれば一日にしようかなと考える利用者もいます。

やはり幼稚園、保育園に入園する前の年齢が多いことがわかります。3歳以上児は幼稚園の夏休み、冬休みなど長期の休みに利用者が増える傾向が

あります。

一時保育利用者の様子（事例）

延長保育と違い、3歳過ぎるとほとんどの子どもがどこかの園に入園するので、一時保育では2年3年と長期にわたる子はいません。慣れてくるとどこかの園に入園してしまうのは寂しいことです。

〈障害児の受け入れについて〉

・予約時にわかっている場合・・・近くの施設（市立の障害児通園施設）や保健所から紹介されてくるケースがほとんどです。

・障害がある場合、受け入れる時点ではっきりわかっている場合と預かってからその子に対する疑問が出てくる場合があります。その場合利用者としてどう接してよいか考えることとなります。担当者同士、気がついたことを話し合い、様子を伝えながら利用者の思い、考えが聞けるようつとめてきましたが、話しているうちに実は専門機関で相談をしていたり、分かっていたが言えなかったというのがいままでのケースでした。利用者にしてみれば一時的な利用施設ではなかなか話しづらい、話せないことは無理もないでしょうが、利用者との信頼関係を築き、ありのままの子どもの姿を伝えられるように、話していただけるようにしたいと思っています。

また、利用者から集団に慣れる、言葉の刺激を受ける等要望がありますが、日々違う子どもたちが利用しているのでお互いに慣れるだけで精一杯であったり、利用する子どもの多くが会話が不十分な年齢であるため、それらの要望に答えられないことも伝えるようにしています。利用者の気持ちを傷つけないよう対応には十分な注意が必要です。

事例

M子（3才）・・・ダウン症

期間：週1回半日から週2回半日ずつ、最終的には週2日利用、保育園に入園するまでのおよそ7ヶ月理由：両親共働きの為、育児をしている祖母の負担を減らしたい経過：健康面で特に配慮が必要でした。風邪をひくと肺炎、入院になりやすいという様子でしたので、体調が悪い時は無理をせず、時間を短くしたり、お祖母ちゃんがすぐに迎えにきてくれました。本人は人見知りもなく、集団での生活にも間もなく慣れ明るい笑顔がとてもかわいい女の子でした。お互いに信頼関係がうまくいった例です。

一時保育利用者の意見から

今まで利用したことのある方からの意見、感想から主なものをあげてみました。利用回数、利用期間、子どもの年齢は様々ですが保育園内での一時保育ということで安心だという意見が多数聞かれた一方で、利用回数の多い方からは料金に対する不満が多く寄せられました。また、父親の送迎

や仕事で利用したいという場合は時間の延長を望む声が多く出ました。

要望、問題点等

- (i) 保育時間（利用時間）を延長してほしい。
- (ii) 利用回数が多いと負担が大きく世間で（新聞や雑誌など）進めるようには利用できない。料金をもっと安くしてほしい。経済的負担が大きい。
- (iii) 担当者と話をする時間が取れにくい（取れない）ので、連絡帳のようなものでやり取りが出来ると良い。

簡単にその日ごとの連絡メモを用意した。

- (iv) 担当者の人数を増やして、受け入れ人数が増えると良い。
- (v) 利用期限、利用回数のシステムを考えて欲しい。
- (vi) 日曜日、祝日も利用できると良い。

良かった点

- (i) 保育園併設なので安心だ。
- (ii) 近くに預けられる所がないので助かった。
- (iii) 常に同じ担当者がいたので子どもが安心できた。
- (iv) 用事があった時だけ預けるのではなく、子育てに疲れた時にも利用してリフレッシュできるのは良い。
- (v) 昼食、おやつが込みで料金は手ごろだと思う。（半日程度の利用時間で4.5回利用）
- (vi) 保育園、幼稚園の休みに利用できて助かった。
- (vii) 預けて2日目にはすごく泣かれてかわいそうだと思ったが、後々なでしこに入るきっかけにもなった。

これらの結果から今後の課題の1つとして利用時間（保育時間）、利用料について検討が必要とされると考えます。

1. 利用時間（保育時間）について

現在は月曜日から金曜日は午前8時～午後4時まで、土曜日は8時から12時となっています。それ以上の時間は状況に応じて個々に対応し可能な限りは受け入れられるよう一時保育だけではなく、園全体で協力体制をとっていますが、対応しきれないのが実際です。また、土曜日はあまり希望はないのですが園が協力日になっていますので受け入れはかなり限られます。

2. 利用料

他市町村による差が見られ、場所によっては料金が大きく違います。

利用者がなるべく利用し易い低料金の設定が望まれますが、市内の他園との話し合いが必要です。

3. その他今後の課題・・・他の一時保育施設との連携

現在市内の6つの私立保育園が共通の設定（時間、利用料）で一時保育を行っていますので、受け入れが出来ない場合はそれらの施設を紹介しています。利用者にとって少しでも利用しやすくより良いサービスを提供できるよう施設間同士の連携が必要と考えます。

4. 保育についての改善点

- ・どうしても小さい年齢の子に手を取られてしまい、大きい子たちが活動を制限されたり、また欲求不満になってしまっていることが多かったので、二人の担当者が乳児と幼児に分かれクラス保育の中に入って子ども達と関わるようにしています。

- ・保育中にも問い合わせがあったり、迎えの時の対応に手をとられてしまうと子ども達に目が届かず危険なこともあったので、他の職員と連携して常に複数体制で保育をするようにしています。

- ・マンネリ化しがちな室内遊びの工夫として、延長保育と連携（夕方は延長保育室です）しながら押入れの下をままごとコーナーにしました。隅っこが大好きな子どもたちのお気に入りの場所になっています。

まとめ

今回の研究を通して改めて一時保育のあり方を考えることができました。預かる子ども達は利用時間や年齢がそれぞれ違い、泣く子やおんぶの子もいて毎日が新学期のようですが、園としては第一に安全にそして居心地の良い場でありたいと思います。

最近では地域に浸透し施設も増え利用し易くなり、また選択できるようになりました。現代の社会情勢の中では、地域や血縁の関わりが益々薄くなり、育児不安を抱える傾向にあります。これからも、利用者側に立ったサービスを基本に内容の充実を図って支援していきたいと思っています。